



第69号

2022年5月15日発行

発行所

社会福祉法人日本キリスト教奉仕団
障がい者総合福祉施設アガペセンター
〒252-0002 座間市小松原 2-10-14
TEL 046-254-7111 FAX 046-255-2915

ホームページアドレス

<http://www.agape-jcws.com>



壁と季節の向こうには何が

アガペセンター長

田中 誠一



どの意向や意見が多数寄せられました。一方、国連が定めた核兵器禁止条約は、二〇二一年一月に発効され、活動家たちは「核軍縮の新たな一章」として歓迎しましたが、核を保有している国々や、地球上の国や地域として唯一、核兵器による壮絶な被害者を輩出した日本も署名を行っていません。日本が署名をしない理由は様々語られています。難しいことが沢山あるのかもしれない。

しかし、第二次世界大戦の末期に初めて使用された核兵器は、その七十五年後に禁止されることになりました。この国連が定めた核兵器禁止条約が永久に継承され、実行されることを心より願っております。

さて、話は変わりますが、世界各地で温暖化によるものなのか雨による水害が多くなっており、日本でも各地から悲しいニュースを耳にします。反面、日本の六月から七月は雨の季節です。街のなかでは聞くことはないでしょうが、田んぼや池では蛙の合奏が騒々しいほどの地域もあるのではない

ででしょうか。

南北に長い日本列島は毎年、南から木々が芽吹き、花の春や新緑の初夏を過ぎると、田植え後の水田に降る雨に濡れて美しさを強調するアジサイの梅雨期、綿菓子のような入道雲が絵になる酷暑の夏を過ぎると、大雪山系の山々から紅葉・黄葉の知らせとなり、秋の訪れを楽しんでいる間に街路樹の落ち葉が舞いはじめ、北国から初雪の便りが届く冬となります。このように五季の国であるからそれぞれの季節感を目で楽しみ、肌で感じる心豊かな国民になったのではないのでしょうか。

私達、アガペセンター職員も専門職としての自覚をもって、利用者ひとりひとりの心の声に耳を傾け、五季のように豊かな感性で支援に努めてまいりますので、皆様には、ご協力とご支援をお願い申し上げます。

過ぎし日の一年はとても短く感じますが、迎える一年は長く長く感じられていたのですが、私も年輪を重ねてきたせいか、最近では一年の期間が短く思えて仕方がありません。
アガペ広報誌は年二回発行しておりますが、今回五月の発行記事を書くにあたり、二月二十四日のニュースは世界を震撼させる内容となりました。ロシアがウクライナへの侵攻を開始し、戦争に発展したとのニュースです。この原稿を執筆している現在（三月末）も多くの負傷者や死亡、隣国では食糧が入らず飢餓状態で苦しんでいるとのニュースも入ってきており、心を痛めるばかりです。
全世界から「人を守るための平和と対話、戦争反対、核兵器を使うな」な



総合相談室 鈴木 瑞穂

総合相談室では、様々な場で暮らしている方の生活を支えるお手伝いをしています。

自宅で家族と一緒に生活をされている方、施設に入所されている方、ここ数年ではグループホームが次々と開設されているため、グループホームで新たに生活を始めた方も増えてきています。

まだ充分とは言えないまでも、生活をする場を選べるようになってきているという事は、喜ばしいことだと感じています。

そのなかで、障がいをお持ちの方が地域で一人暮らしをしているケースはまだまだ少数のように感じられます。今回は、地域で長年一人暮らしをしている方のお話をご紹介します。

インタビューに答えて下さったのは、座間市内で一人暮らしをしている男性Aさんです。

家族と一緒に過ごしたご自宅で、二十年以上一人暮らしをしています。Aさんの朝は六時半頃始まりです。一人で起きて、朝食と身支度をすませ、市内の地域作業所へ三十分かけて歩いて通っています。日々の作業にしっかりと取り組み、帰宅後は買物へ行ったり夕飯の支度をしたり、お風呂と夕食を済ませた後はのんびり過ごします。

夕食のメニューは毎週金曜日に作る得意なカレー、肉野菜炒め、みそ汁を作ったりと、とてもおいしそうです。毎週ヘルパーさんも来て、バランスの良い食事づくりをサポートしてくれています。



Aさんは整理整頓やお金を計画的に使うこと、市役所の手続きや、新しい病院へ相談に行ったりすることは少し苦手ですが、作業所の職員さん、あんしんセンターさんやヘルパー事業所さんなどの公的機関、自治会や民生委員など地域の人も含めて、たくさんの方がAさんの暮らしを支えています。

私たち相談員は、ご本人が困った時に話を聞き、解決方法を一緒に考える役割です。アガペとしては十六年間、六名の相談員がAさんの担当をさせて頂いてきました。

Aさんに今後、どのようにして暮らしていきたいですかと伺うと、二人でのんびり暮らすのもいいかな。って話してくれました。二人暮らしで、寂しくないですか？と聞くと、少し考えてから「寂しくはないかな。」と答えてくれました。好きなものに囲まれてゆっくり過ごせる今の暮らしが、Aさんにとってとても幸せな時間だそうです。

今後年を重ねるなかで、大変なことでもたくさん出てくるでしょう。でも、「今の家（うち）に長く住みたい。」という気持ちで尊重し、これからは伴走者としてAさんの暮らしを支えていきたいです。

汗と機械油とさわやかセンター

就労支援課 町田 緑介

アガペセンター敷地内のすみっこに、さわやかセンターという建物があります。以前は売番館に入居している利用者さんの日中活動の場として使われていましたが、今はアガペ作業所に通っている利用者さんたちの仕事場になっています。

現在、さわやかセンターでは株式会社リハーツ様（以下「リハーツ」という）より請け負っている「給湯器の解体作業」が行われています。この作業は二〇二三年の五月に当時のアガペ第一作業所（現・アガペ作業所）企業下請部門が導入したものです。

当初は企業下請部門の作業場の一角で作業していましたが、二〇一八年からさわやかセンターにて作業を行っています。毎月二回運び込まれる使用済み給湯器を、約三十種類の部品に分解・分別して素材ごとに納品しています。

作業にはエアードライバーを始めとした各種工具を使用するので、ある程度の危険や騒音を伴います。様々な部品をリサイクルしやすい状態にまで分解するので、複雑な工程を覚える必要もあります。長年毎日働いていた給湯器なので錆や汚れも目立ちます。それでも、道具を使いこなして機械をバラ

バラにしていくことに面白さを感じる事ができる勇敢な企業下請部門所属の精鋭たちが集まり（現在は九名ほど）、毎日ひたむきに解体作業に取り組んでいます。リハーツのご協力のおかげで、途切れることなく作業を行うことができています。

アガペ利用者の作業に貢献していただいているリハーツですが、昨年末、神奈川県セルブセンターで発注に貢献した企業への表彰事業があり、リハーツが表彰されました。コロナ禍の影響で大々的な表彰式は行われませんでした。アガペ作業所にお越しいただき利用者さんと共に表彰状や記念品をお渡しすることができました。この場をお借りし感謝の気持ちをお伝えいたします。今後も利用者の方の為に、ご協力のほどよろしくお願い致します。



『知る』『尊重する』

ことの大切さ

生活支援課 河合 琢也

わたくしは生活支援課に配属され入所している方の生活の支援にあたり十年ほど携わってまいりました。今回広報誌に寄稿するにあたり、皆さんに知っていただきたいことがあります。

それは生活の中で『それぞれ』の感じ方の違いについてです。



同じ一つの事柄でも見た人の感じ方によって捉え方が変わるものとがあります。例えば、コップに水が半分入っているのを見て、ある人は「まだこれだけ入っている」と感じ、またある人は「もうこれしか入っていない」と感じたりします。この『感じ方』というのがなかなか難しい問題です。さて、ようやく本題です。日常生活の支援をしていると、いろいろな場面や出来事を通して、この『感じ方』について考えさせられる事があります。例えば起床・就寝時間が早い方や遅い方、入浴の際の髪を洗う強さは、力強い方が気持ちがいいという方もいれば、皮膚が痛いので優しくして欲しいという方もいます。食事の味は濃い方が薄い方が、居室の温度

は高い方が、低い方が：と、挙げればきりがありません。

その人個人に起因する要素や育ってきた環境などにより影響されたり、人の数だけの『感じ方』があります。

感じ方はそれぞれ違って当然なのです。違うからよくないという事ではなく、違うことを認め合うことが大切です。このことは、利用者さんの支援の方法を決める際にもとても重要なことです。

その人らしく生活を送っていただくことができるように試行錯誤が今後も続いていきます。

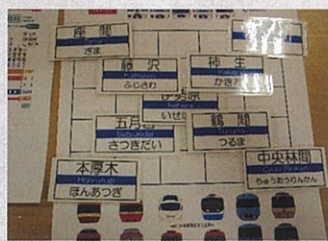


新プログラム紹介

地域支援課 竹内 亮

アガベサポートセンターの生活介護では毎年、年度末にサービスマンに関するアンケートを配布しております。集計結果から、人気のあるプログラムは何だったのかと目を通してみると、二〇二〇年度から取り入れた新しい四つのプログラムが好評だったことがわかりました。そこで、それらのプログラム紹介をいたします。

まずは「みんなで動画」という、インターネットを活用したプログラムの導入です。一〇二二年度より、新たな取り組みとしてWiFiを使用するよう環境にしました。これにより、インターネットを活用したクイズ大会や音楽鑑賞会、イントロクイズや電車クイズなど様々なプログラムで盛り上げていきます。



次に「小田急BinGo」です。皆さんに馴染みのある「小田急線」の全七十四駅から好きな二十四駅を選んでもらい、それをBinGoカードにしています。数字のBinGoゲームとは違った盛り上がりがあります。次に紹介するのは「利き〇〇」ゲームです。例えば「コーヒード」であれば「モカ」や「キリマンジャロ」

などを事前に一口ずつ試飲し、その後順番を入れ替えて再度飲み比べ、味覚だけでどの種類かを当てるゲームになります。利用者さん、職員双方が参加できるので盛り上がりがあります。



最後に紹介するのは「オオカミ少年ゲーム」です。例えば、職員数人が饅頭を食べます。その中に「からし入り」があり、食べた職員のリアクションで誰が「からし入り」を食べたかを当てるゲームになります。職員の演技力、利用者さんの観察力が試されます。

これらの新しいプログラムは、二年度に渡り続いているコロナ禍で、どうしても外出機会が制限されており、そんな中でも楽しみをと生まれたプログラムです。一方でアンケートの多くに「コロナが落ち着いたら外出したい」という希望が記載されており、その思いはしっかりと受け止めつつ、以前のように外出プログラムができる日までは、工夫を凝らして二〇二二年度も新たなプログラムをスタッフ皆で創意工夫をして思案していきたいと思っています。



同窓生は



鈴木 大悟さん

現在のお仕事について教えてください。

私は綾瀬郵便局で、主に清掃の仕事をしています。仕事の内容は、フロアの清掃や消毒、ロッカー清掃などです。仕事を始めてから三年以上が過ぎました。

仕事をしてみても嬉しかったことは何ですか？

最初のうちは慣れないことも多かったのですが、今はもうすっかり慣れました。清掃は大変なこともありませんが、やっているのと周りからほめられることがあり嬉しいです。

休日はどう過ごしていますか？

家の近くを散歩したり、図書館に行ったり、家で映画を観たりしています。コロナが収まったら、映画館に行って好きな映画をたくさん観たいです。

アガペで一番の思い出は何ですか？

色々ありますが、みんなと一緒に洗車したり、パソコンを学べたりしたことですね。

利用者さん一言お願いします。

今訓練されている方はきつとい会社で巡り合えると思いますので、くじけずに頑張ってください。

私たちアガペから 巣立ちました！

2021年度
就労実績報告

* 一般企業 (自動車)清掃	2名
(精密機械)清掃	1名
事務補助	1名
* 市役所	1名
* 特例子会社 (製造請負)製造	2名

共に生きる

高座教会 副牧師 和田 一郎

「人が独りであるのは良くない。」

彼に合う助けけるものを造ろう」

創世記二章十八節

十一年前の東日本大震災の時、絆という言葉が注目されました。物やお金はなくても、絆によって豊かに生きることができると感じたものです。それから十年がたつて、その絆を断ち切ってしまうコロナウイルスが世界を襲いました。さらにウクライナとロシア軍との争いが、人と人との絆を憎しみに変えてしまう出来事が起こってしまいました。しかし、それでも人はひとり生きていくことはできないと聖書は語っています。人がひとりであることは確かですが「交わり」が必要なのは、神様が、そもそもそのような存在として人を造られたからです。ですから今こそ、共に生きる相手のために祈りたいのです。



広報委員長(元田)が行く！

アガペ壱番館 職員募集中!!

入所利用者に寄り添い、生活のお手伝いをさせていただくお仕事です。

* 正職員 *

3交代勤務シフト制(2交代勤務も可)
年間休日125日/カフェテリア福利厚生/
社会保険完備
給与は当事業所の規定による/賞与4.0ヶ月

* パート *

勤務時間、曜日は柔軟に対応しますので、ご相談下さい。
時給1,278円~(処遇改善手当含)

担当: 総務課 坂口・山口
046-254-7111

ご応募、見学ご希望の方はご連絡下さい。

「支援」厚意に

感謝申しあげます。

〈献金者〉

- 二〇二二年四月一日から二〇二二年三月三十一日までの献金分
- 中塚 正彦様 村山 鐵郎様
- 水口 建子様 匿名希望 四名様
- 株式会社リハーツ様

ご指定いただいた寄付金は、アガペセンター設備等充実のため有意義に活用させていただきます。

〈寄贈者〉

- 伊奈 哲雄様 電動ベッド
- コストコホールセールジャパン株式会社様
水遊び用玩具、ぬいぐるみ、ティッシュ、お絵描き帳、ひさかけ等
- 中島 健夫様 りんご十キログラム
- 日本キリスト教団 町田教会様
- 野菜、米

